

令和6年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立美和東小学校

1 総括

(1) 教育目標

校訓を「豊かな人間性を持ち、心身を鍛え自己を磨き上げる子」とし、生きる力を支える〔確かな学力〕〔豊かな心〕〔健やかな体〕の調和のとれた児童の育成を図る。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 生き生きと学び合う子どもの育成

- ・ 子どものさらなる可能性を信じ「やればできる」と勇気づけ、何事にも挑戦できる子どもを育てる。
- ・ 「つなぐ つながる 東っ子」を合い言葉に、異学年交流の場や地域の人と関わる機会を通して多くを学び、自分を見つめ、考えを深め高めていく子どもを育てる。

イ 開かれた学校づくりの推進

- ・ 家庭・地域との連携を大切にし、安全・安心で、開かれた信頼される学校づくりに努める。
- ・ 地域の方々と関わり、地域へ出かけて、地域を知り、地域に根ざした学校づくりに努める。

ウ お互いが信頼し合える教職員集団と働き方の見直し

- ・ ほんのちょっとした「気配り・心配り」を心がけ、職員同士の意思疎通を大切に、「チーム力」を生かした教職員集団を創る。
- ・ 一人一人のよさを認め・努力をほめ・不足を励まし・個性やよさを伸ばす指導をする。
- ・ タブレットの有効活用により、文書等の共有化を進め、会議の精選や会議時間の厳守、時間の短縮化に努める。
- ・ 業務の棚卸しと見える化を推し進め、協力体制を整え、処理の円滑化と業務の効率化を図る。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和6年12月3日～12月9日
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照 (Google Formにて回答)
- (3) 調査対象 有効回答者数/対象者数
 - ・ 児童 281名/全285名
 - ・ 保護者 188名/全285名
 - ・ 教職員 20名/全20名

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考察【児童、保護者、教職員の総括的考察】

(1) 児童の評価

- ・ 全体を通して、肯定的な意見が多く、学校生活において満足と感じている児童が多い。
- ・ 「1. 私は、学校で楽しく生活できています」「22. 学校での学習や生活を通して自分が成長していると思います」に対する肯定的回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）が93%であった。しかし、「3. あいさつ」「4. 掃除」「17. 朝の読書」に関する項目では、（そう思う）の割合が少なかった。今後も、児童への継続した指導が必要であると考えます。
- ・ 「9. 悪口をいったり、人を傷つけたりしないよう、言葉づかいに気をつけています」「14. 私は相談できる友達や、話をきいてくれたりアドバイスをしてくれたりする先生がいます」では、肯定的回答がそれぞれ87%、93%だった。今後も、教職員が児童や保護者との信頼関係を深めるとともに、きめ細かな観察により、いじめ等に対する早期発見・早期対応・早期解決につながるよう進めていきたいと考える。
- ・ 「15. 授業中、先生はわかりやすく教えてください」「16. 私は授業中、先生の話や友達の話をしっかり聞いています」では、肯定的回答が97%であった。教職員とともに学習に前向きに取り組んでいることがうかがえる。

(2) 保護者の評価

- ・ 本年度で2回目の「Google Form」によるアンケートを実施だった。紙面以外にもきずなネットでの依頼をしたため回答数は微増した。
- ・ 質問に対して肯定的な意見が多く、子どもが学校生活に満足していると感じている保護者が多いことがうかがえる。
- ・ 「6. 学校は、学校のきまりや約束を守る態度を育てようとしている」「23. 先生は、学校に行っ

たときや電話での対応がていねいである」では、それぞれ94%、98%と高かった。学校や教職員の取組に対して保護者が理解していると考えられる。

- ・ 「21. コミュニティ・スクールとして学校と保護者、地域が連携・協働し、子どもたちを育てていると思いますか」の（そう思う）の割合が少なかった。平成29年4月1日より施行されたコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の取組について、まだ地域全体や保護者に十分認知されていないと考えられる。今後も「開かれた学校」から一歩踏み込んだ「地域とともにある学校」への転換を図るために有効な仕組みであることを発信する必要がある。

(3) 教職員の評価

- ・ 8割以上の質問で80%以上の肯定的回答になったが、8割に満たない回答も何問かあった。今年度、職員の半数近く入れかわっているため、数値の内容が変化したと考えられる。
- ・ 「15. 私は基礎基本を定着させるための学習や、授業に主体的、対話的な活動などを取り入れるように心がけ、常にわかりやすい授業をめざして工夫している」「16. 私は、授業中、児童が話を聞いているかどうか、確認するように心がけている」の質問に対して肯定的回答が高い一方、「私は、児童の観察メモやノート点検等を資料化するなど、客観的な評価を心がけている」の肯定的な回答は低かった。「主体的、対話的で深い学び」につなげる授業は行っているが、それに伴う評価の方法については苦慮していることがうかがえる。
- ・ 「8. 私は、家庭での生活習慣について、折に触れ話題にし、児童に振り返らせている」「18. 私は、家庭での学習習慣を学級の話題にするなど、家庭学習の児童の意識付けを図っている」の肯定的な回答は低かった。学校内の指導は積極的に実践しているが、学校外（家庭・地域）の指導については苦慮していることがうかがえる。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 児童・保護者・教職員アンケートの結果から、各項目の肯定的評価の数値が高く、学校教育活動が児童にとって充実したものであり、自己肯定感の高い児童が増えている。また、感染症への対応も含めて、教職員の学習指導や生徒指導への対応について保護者からの理解も得られていると考えられ、教職員もそれを実感していると判断できる。今後も、学校と家庭・地域との連携を積極的に行い、安全・安心で開かれた信頼される学校づくりに努めていく。
- (2) 各教科の授業において、基礎基本を定着させるために、対話をつなぐ言葉かけ・働きかけを追求した。特に、ICT機器（タブレット）を効果的に活用し、ドリル学習だけでなく、グループでの話し合いを通して自身の考えを深めていけるような授業展開を工夫して取り組んできた。また、タブレット端末を用いた授業を通してデジタル・アナログのメリット・デメリットについて、教職員同士で話し合いを重ね研究を進めることができた。今後もこれらの取組を、児童一人一人の成長や効果的な活用方法につなげていきたいと考える。

《課題》

- (1) 「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、授業においては聞く力が育ち、教職員も児童も学び合いについて見通しをもった活動ができるようになった。しかし、教職員は、その活動について客観的に評価することが難しいと感じている。
- (2) 悪口やいじめを見逃さず、一人一人を大切にしたい指導を心がけ、互いに認め合う教育活動を進めたことにより、子どもたちが安心して学校での生活を送ることにつながっていると考えるが、表面化していない問題を抱えている場合も考えられる。

6 改善策

- (1) 「自ら考え、共に学び合う学級・授業」を推進するため、教員の力量向上に向けて、研修の充実を図る。校内での研究授業の計画を立て、教員同士が互いの授業から学び合うことのできる環境を整える。また、あま市等で行われる校外研修会にも積極的に参加するように呼び掛ける。
- (2) 気になる児童についての情報交換を常に行い、気軽に相談できる雰囲気を作り、職員間の連絡を密にするとともに、学校生活アンケート・Q-Uアンケートの結果や教育相談を通して、児童の些細なサインを見逃さないようにする。今後も、学校が組織として悪口やいじめを把握し、その認知を正確に行い、必要に応じた指導をすることで解決するように努める。